

2024年3月期 第2四半期 決算説明

2023年11月10日
いすゞ自動車株式会社

説明内容

1. 全体総括
2. 2024年3月期 上期実績及び通期見通し
3. 中期経営計画 進捗状況

本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するものを除いては、現時点で入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定及び判断に基づくものです。従いまして、かかる仮定及び判断に含まれる不確定要素や将来の経済環境の変化などを含む種々の要因によって影響を受ける可能性があり、ゆえに、当社の将来の業績、経営結果等と異なる結果をもたらす可能性があります。

1. 全体総括

全体総括①

1. '24年3月期 上期実績（前年同期比）

- 損益は、新興国を中心とした市況悪化、資材費等の変動による減益影響あるも、円安進行に加えて、好調なアフターセールス、価格対応などの施策が奏功し、前年に対して増益。
- 上期における売上高及び全ての利益項目において、過去最高を計上。
- CVは、新興国向けは市況厳しく台数減となったが、先進国向けは部品不足改善により台数増。
- LCVは、タイ向けは市況厳しく大幅に台数減となったが、輸出向けは先期に部品不足により、バックオーダーが積み上がった仕向を中心に台数増。

2. '24年3月期 通期見通し

- 損益は、CV・LCV共に厳しい市況を受け販売台数は下方修正も、価格対応、原価低減活動などの順調な進捗に加え、資材費等の価格が想定ほど上昇していないこと、円安進行などの外部環境の好転もあり、通期見通しを上方修正する。
- 営業利益は、2,800億円を見込む。(前回見通しから+200億円の上方修正)

当社の製品カテゴリを示す用語について(P.25の付表をご参照ください)

CV (Commercial Vehicle)：商用車（トラック及びバス）

LCV (Light Commercial Vehicle)：ピックアップトラック及び派生車

山口でございます。わたくしより、全体を総括して、ご説明します。
まずは上期の実績です。

損益は、新興国を中心とした市況の悪化、資材費等の変動による減益影響はありましたが、円安影響に加えて、好調なアフターセールス、価格対応などの施策が奏功し、前年に対して増益となりました。

この結果、上期における売上高、及び全ての利益項目において、過去最高となりました。

台数面は、CVでは、新興国向けが市況厳しく減少した一方、先進国向けは、部品不足の改善により増加しました。
LCVでは、タイ国内向けが市況厳しく大幅に減少した一方、輸出向けは、先期の部品不足によりバックオーダーが積み上がっていた仕向を中心に増加しました。

続きまして、24年3月期 通期の見通しです。

CV・LCVともに厳しい市況を想定しており、販売台数は、前回公表した見通しから下方修正しますが、損益は、価格対応、原価低減活動などの順調な進捗に加え、資材費等の価格が想定ほど上昇していないこと、円安進行などの外部環境の好転もあり、上方修正します。

営業利益は、前回見通しから200億円の上方修正となる、2,800億円を見込みます。

全体総括②

3. 株主還元

- 自己株式取得については、財務状況、キャッシュ・フロー、収益見通し等を総合的に勘案し、株主還元強化及び資本効率の向上を目的として、今期中に500億円を上限に実施する。
(取得した自己株式は、全数消却予定)
- 配当金(通期)は、本中計期間の方針(配当性向平均40%)に基づき、前回見通しから+6円増配の86円とする。
- 総還元性向は、本中計期間の3年間合計で、51.8%となる見通し。
- 今期のROE目標12.5%については、引き続き増益により達成を目指す。

4. 事業再編

- 連結子会社のIJTTにおいては、既存事業の更なる深化に加えて、新たな事業領域への展開を企図し、スパークスグループならびに日本モノづくり未来ファンドとの協業を開始。
- 当社とIJTTの取引関係は継続しつつ、企業価値の更なる向上を目指す。
- 本再編により、今期中に連結子会社から持分法適用会社に異動。
- 2024年3月頃(予定)に特別損失▲60億円を見込む。

続きまして、株主還元についてご説明します。

本日、当社のホームページでもお伝えしておりますが、財務状況、キャッシュ・フロー、収益見通し等を総合的に勘案し、株主還元強化、及び資本効率の向上を目的に、今期中に500億円を上限とした自己株式の取得を行います。
また、取得した自己株式は、全数を消却する予定です。

配当金については、中期経営計画で掲げた、本中計期間の配当性向平均40%の方針に則り、前回見通しから6円増配となる通期86円とします。

この結果、総還元性向は、本中計期間の3年間合計で、51.8%となる見通しです。

また、今期のROE目標12.5%については、引き続き、増益により達成を目指してまいります。

最後に、事業再編についてご報告します。

こちら本ホームページ上でお知らせしておりますが、当社の連結子会社であるIJTTにおいて、既存事業の更なる深化に加えて、新たな事業領域への展開を企図し、スパークスグループならびに日本モノづくり未来ファンドとの協業を開始する運びとなりました。

当社との取引関係は継続しつつ、企業価値向上を目指します。今後も、当社にとっての重要なサプライヤーであることは変わりなく、部品調達取引は継続し、資金面も支えていくことで、両社ともに発展していくことを目指します。

なお、本再編により、IJTTは、今期中に連結子会社から持分法適用会社に異動することになります。また、損益影響として、2024年3月頃に、特別損失▲60億円を見込みます。

全体総括 '24年3月期 上期実績

グローバル販売台数(千台)		'24/3上期	'23/3上期	対前年比増減	
CV計	国内	38	27	+11	+40%
	海外	122	148	▲26	▲17%
		160	175	▲15	▲8%
LCV計	タイ	61	104	▲43	▲42%
	輸出	115	104	+11	+10%
		176	208	▲32	▲16%
合計		336	383	▲47	▲12%

決算実績(億円)

売上高	16,380	14,933	+1,447	+10%
営業利益	1,432	1,122	+310	+28%
経常利益	1,580	1,255	+325	+26%
当期利益	881	730	+151	+21%

続きまして、24年3月期上期実績の全体総括です。

冒頭に申しました通り、販売台数は、CV・LCV共に先期から減少となりました。損益につきましては、記載の通りです。

全体総括 '24年3月期 見通し

グローバル販売台数(千台)		'24/3期 今回見通し	'24/3期 前回見通し	増減		(参考) '23/3期
CV計	国内	84	90	▲6	▲6%	67
	海外	255	275	▲20	▲7%	287
		339	365	▲26	▲7%	354
LCV計	タイ	129	149	▲20	▲13%	202
	輸出	241	241	+0	+0%	215
		370	390	▲20	▲5%	417
合計		709	755	▲46	▲6%	771
決算見通し(億円)						
売上高		34,000	33,000	+1,000	+3%	31,955
営業利益		2,800	2,600	+200	+8%	2,535
経常利益		3,000	2,750	+250	+9%	2,699
当期利益		1,650	1,550	+100	+6%	1,517
1株当たり配当		86円	80円	+6円		79円

続きまして、24年3月期 通期の販売台数と損益見通しです。

販売台数は、海外CV及びタイ国内向けLCVを中心に
前回見通しから下方修正しています。

一方、損益につきましては、冒頭に申しました通り、
売上高及び全ての利益項目で上方修正します。

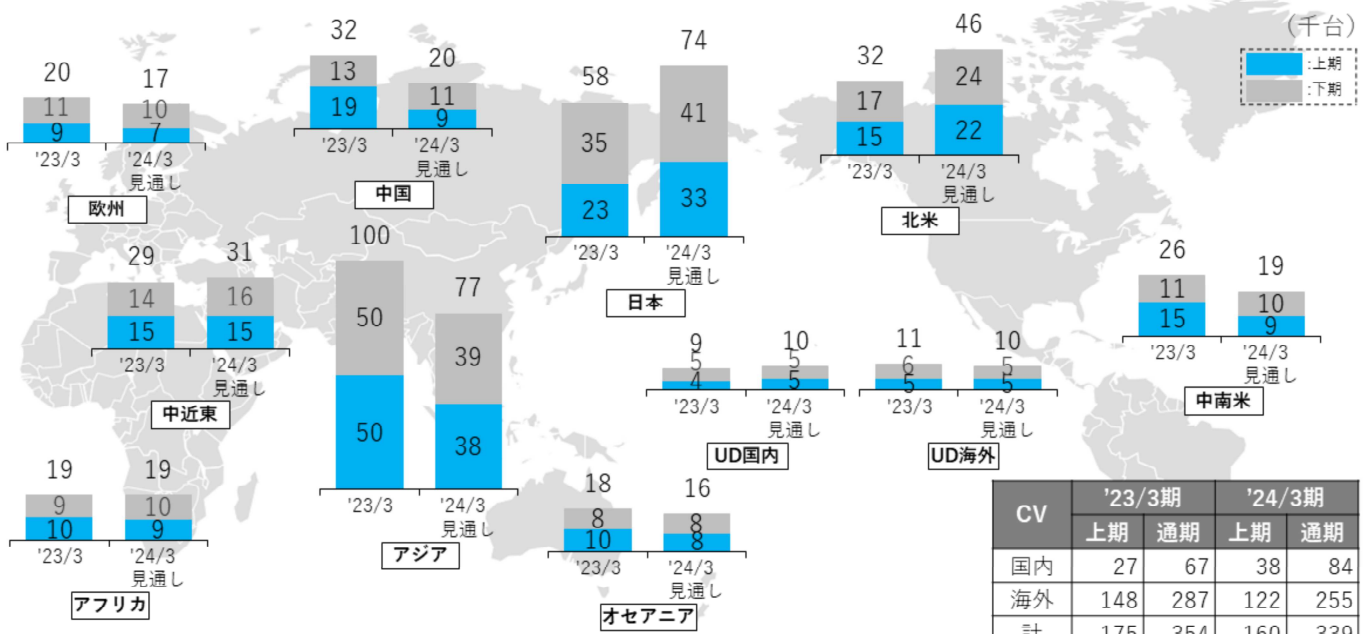
私からは以上です。

2. 2024年3月期 上期実績及び通期見通し

続きまして、24年3月期 上期実績及び通期見通しにつきまして、
私、山北よりご説明します。

CVグローバル販売台数①

■ 上期台数：国内・北米向けは部品不足改善により増加も、アジア・中南米を中心とした新興国は金利上昇・インフレ影響により市況厳しく減少



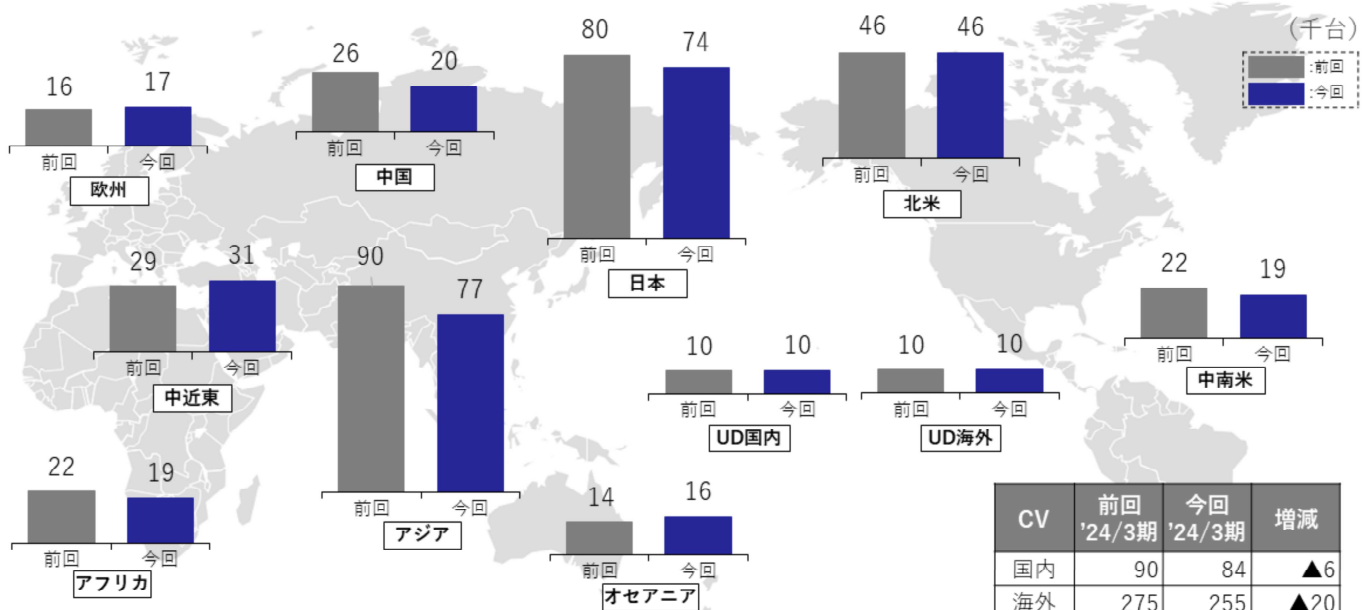
8 *国内CV：卸売/直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷

CVグローバル販売台数です。

上期は、先期に対して、国内及び北米向けが、部品不足の改善により増加する一方、アジア・中南米を中心とした新興国は、金利上昇・インフレ影響により市況が厳しく、減少しました。

CVグローバル販売台数② 通期見通し(前回見通しとの比較)

- 国内向けの販売までのリードタイム長期化、及びアジアを中心とした新興国の金利上昇・インフレ影響による需要減を反映し、台数を下方修正



CV	前回 '24/3期	今回 '24/3期	増減
国内	90	84	▲6
海外	275	255	▲20
計	365	339	▲26

9 *国内CV：卸売/直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷

Copyright(C) 2023 Isuzu Motors Limited All rights reserved

こちらは、CVグローバル販売台数の通期見通しについて、前回見通しとの比較になります。

国内向けは、販売までのリードタイムが長期化している影響から下方修正しております。

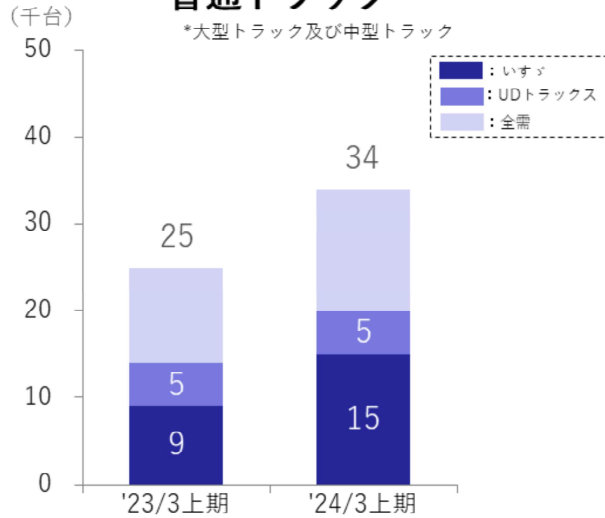
海外向けも、インドネシア、ベトナムといったアジアを中心に、新興国の金利上昇・インフレによる需要減を反映し、下方修正しています。

国内トラック 全需・シェア実績 (4-9月)

- 全需：いすゞ・各社で生産制約の解消が進み、普通／小型共に回復
- シェア：生産制約の解消が進み、普通／小型共に増加

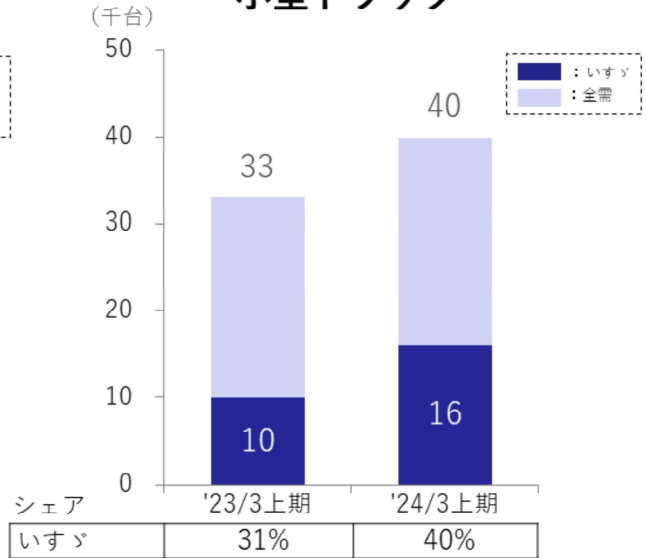
普通トラック

*大型トラック及び中型トラック



シェア	'23/3上期	'24/3上期
いすゞ	37%	43%
UDトラックス	18%	14%

小型トラック



シェア	'23/3上期	'24/3上期
いすゞ	31%	40%

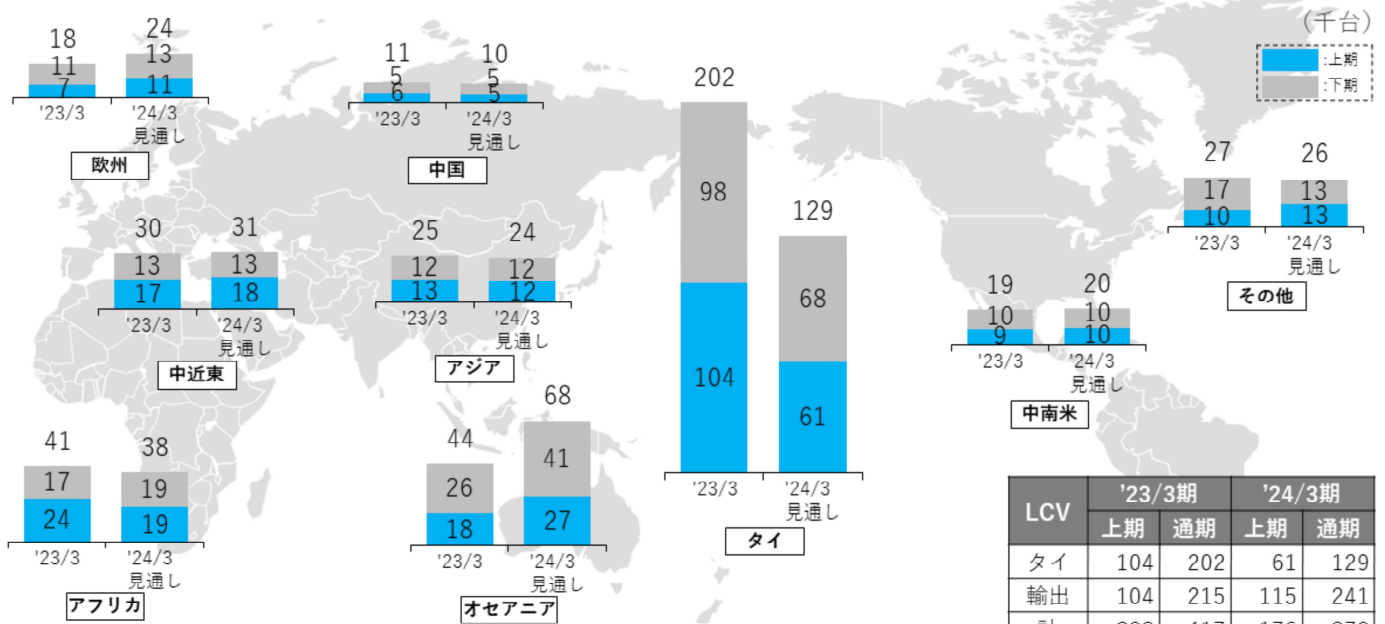
国内の全需及びシェアの上期実績です。

全需は、いすゞ・各社共に、生産制約の解消が進み、普通トラック・小型トラック共に回復しました。

シェアも、生産制約の解消が進んだことで、普通・小型共に増加しました。

LCVグローバル販売台数①

■ 上期台数：タイ国内向けは市況厳しく大幅減、輸出向けは先期の部品不足によりバックオーダーが積み上がった仕向を中心に増加



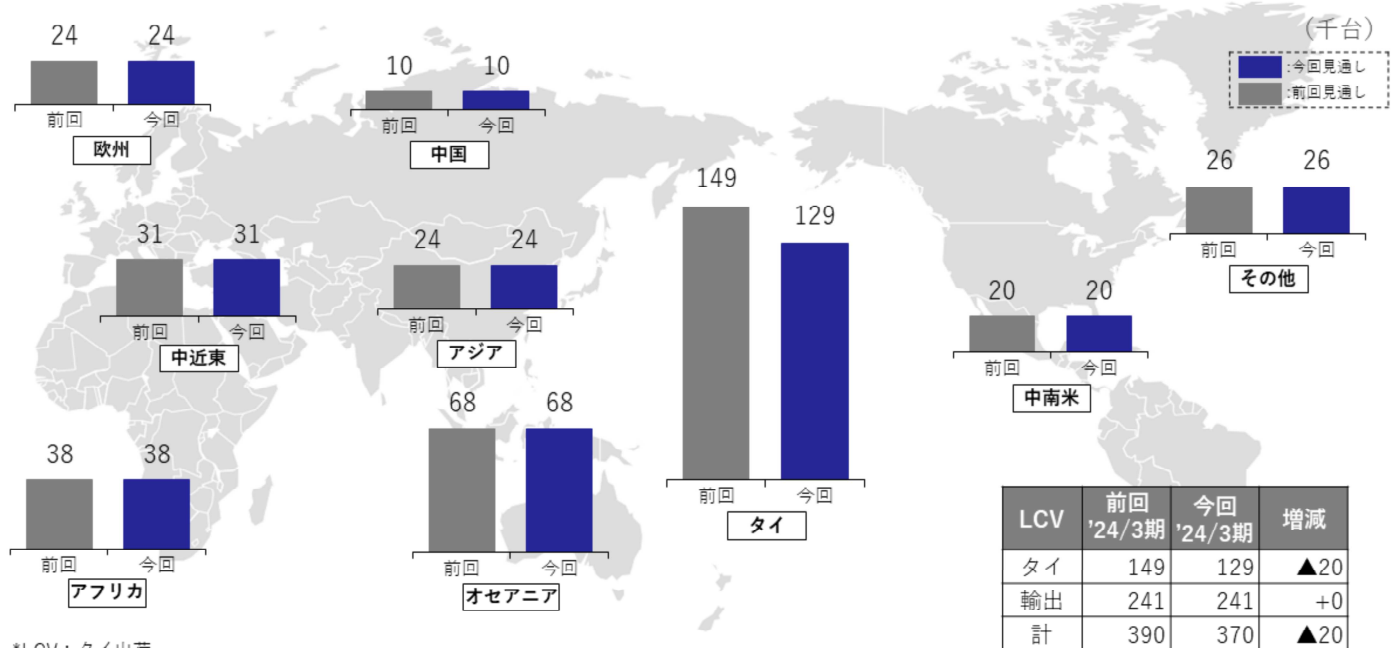
*LCV：タイ出荷

LCVグローバル販売台数です。

上期は、先期に対して、タイ国内向けは市況厳しく、大幅減となりましたが、輸出向けは、先期の部品不足によりバックオーダーが積み上がった仕向を中心に、増加しました。

LCVグローバル販売台数②通期見通し(前回見通しとの比較)

- タイ国内向けは、市況の回復が見込めず台数を下方修正、輸出向けは需要動向変わらず台数は据え置き



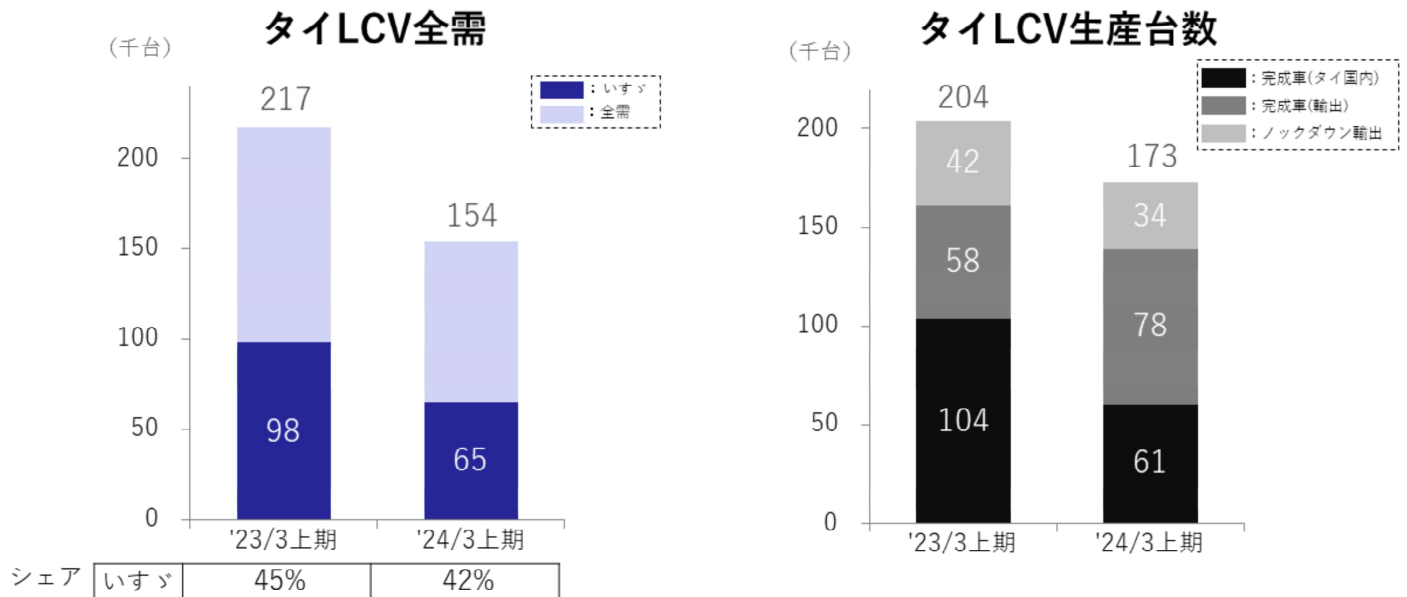
続きまして、LCVグローバル販売台数の通期見通しについて、8月公表値との比較になります。

タイ国内向けは、市況回復が見込めず、前回見通しからもう一段、下方修正しています。

輸出向けは、需要動向に大きな変化なく、台数を据え置いています。

タイLCV全需・シェア実績／LCV生産台数実績

- 全需は、市況悪化により大幅減、シェアは、先期から高シェアを維持
- 生産台数は、タイ国内向けの減少により、先期を下回る



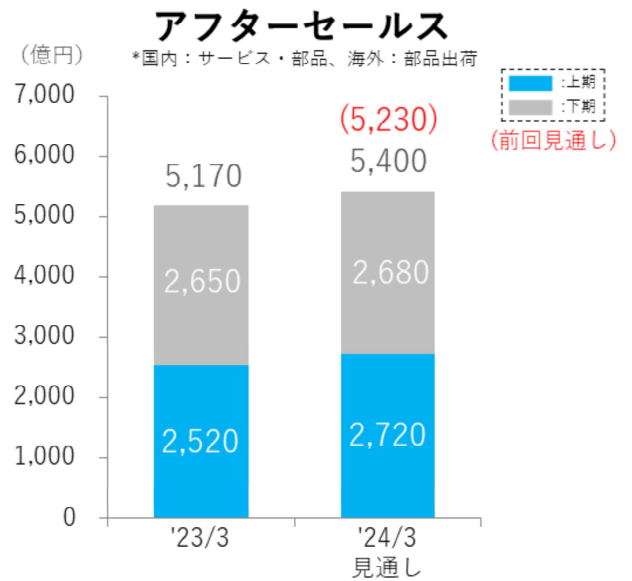
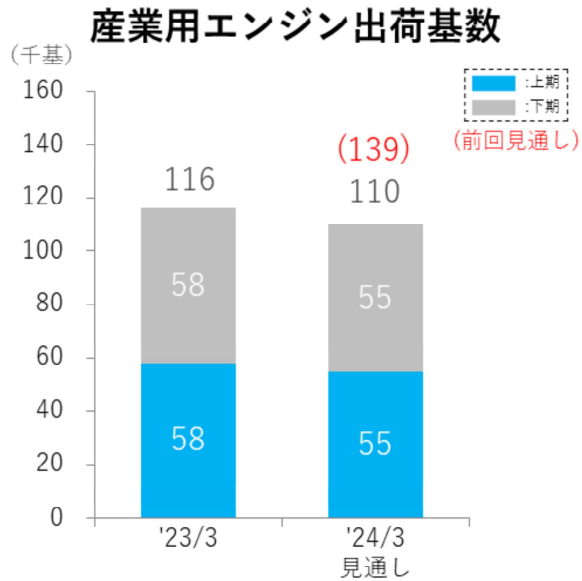
タイのLCV全需、シェア、及び生産台数の上期実績です。

全需は、市況の悪化により、先期から大幅減となりましたが、シェアは、高シェアを維持しています。

生産台数は、タイ国内向けの減少が大きく、先期を下回りました。

産業用エンジン出荷／アフターセールス売上実績

- 産業用エンジン：中国建機需要の悪化を受け、出荷基数を先期並に下方修正
- アフターセールス：国内を中心とした堅調な需要を反映し、上方修正



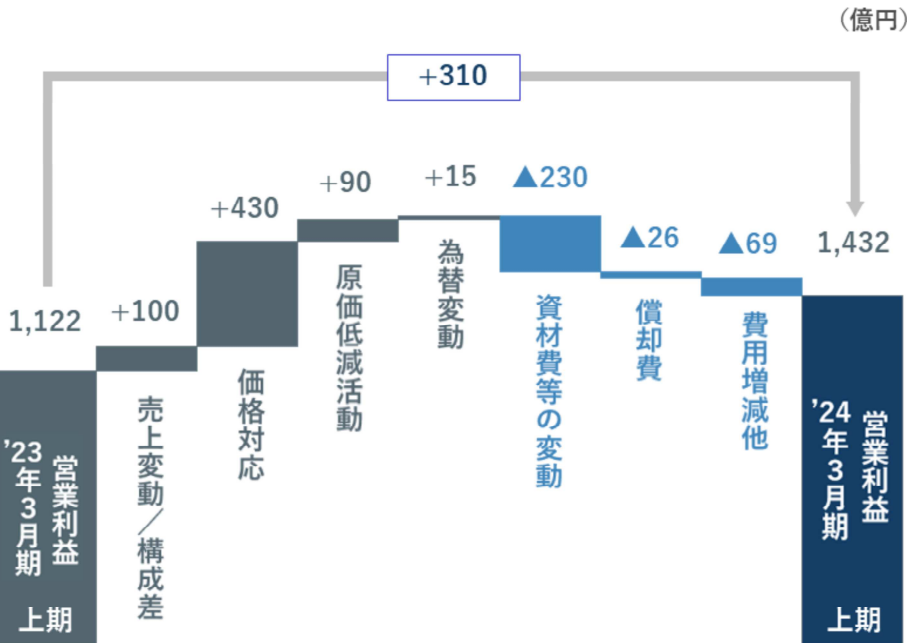
産業用エンジン、アフターセールスです。

産業用エンジンの出荷基数は、中国建機需要の悪化を受け、通期見通しを先期並に下方修正しています。

一方、アフターセールスの売上は、国内を中心とした堅調な需要を反映し、通期見通しを上方修正しています。

'24年3月期 上期営業利益実績 増減分析 -前年同期比-

■ 販売台数は減少するも、仕向・車型構成の改善、好調なアフターセールス、価格対応、及び原価低減活動が奏功し、増益



為替実績	'23/3期	'24/3期
USD/JPY	134.2	141.1
AUD/JPY	93.6	93.2
EUR/JPY	138.8	153.5
THB/JPY	3.79	4.05

内訳	'24/3期
売上変動/構成差	+100
国内CV	+170
海外CV	▲70
LCV	▲50
その他	+50
為替変動	+15
USD	+35
AUD	▲1
EUR	▲28
THB他	+9
資材費等の変動	▲230
資材費	▲295
物流費	+80
電気・ガス他	▲15
費用増減他	▲69
開発費	▲11
労務費	▲45
一般経費他	▲13

続きまして、24年3月期上期の営業利益の増減分析になります。

販売台数は減少しておりますが、仕向・車型構成の改善、好調なアフターセールス、価格対応、及び原価低減活動が奏功し先期に対し+310億円の増益となりました。

為替実績は上段に記載した通りです。

なお、今回より、為替の内訳にユーロを追加しております。

円安ユーロ高が進んでおり、ユーロ建の仕入におけるマイナスインパクトを記載しております。

'24年3月期 上期実績 -前年同期比-

(億円)	'24/3上期	'23/3上期	対前年比増減	
売上高	16,380	14,933	+1,447	+10%
営業利益	1,432	1,122	+310	+28%
経常利益	1,580	1,255	+325	+26%
当期利益*	881	730	+151	+21%

	'24/3 上期	'23/3 上期		'24/3 上期	'23/3 上期
営業利益	1,432	1,122	経常利益	1,580	1,255
持分法による投資損益	+49	+34	投資有価証券売却損益、固定資産売却損等	+1	+5
為替差損益	+33	+44	ロシア事業関連損失	▲22	-
その他	+66	+55	法人税等	▲432	▲327
経常利益	1,580	1,255	非支配株主に帰属する当期純利益	▲246	▲203
			当期利益*	881	730

*親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益以下の説明です。

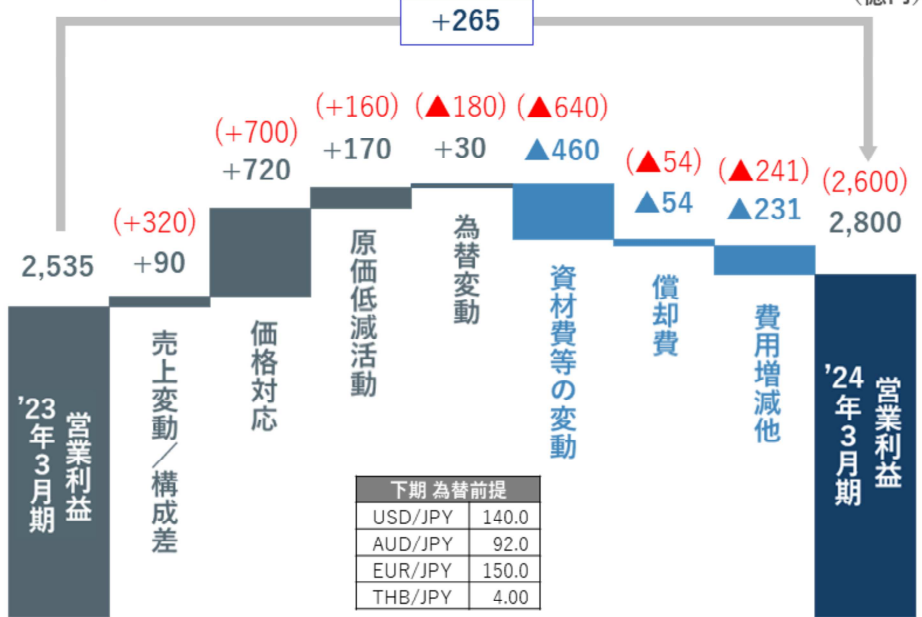
経常利益は、営業利益1,432億円から持分法による投資損益、為替差損益などを加減し、1,580億円となりました。

当期利益は、経常利益1,580億円から、法人税等、非支配株主に帰属する当期純利益などを加減し、881億円となりました。
なお、ロシア事業関連損失22億円は、第一四半期に計上しており、内容に変更はありません。

'24年3月期営業利益見通し 増減分析 -前年同期比-

■ 販売台数は減少するも、価格対応の積み増し、資材費等が想定ほど上昇していないこと、及び円安影響により前回見通しから増益。為替前提を見直した上で、通期見通しを上方修正する

(前回見通し)



為替前提	'23/3期	'24/3期	前回見通し
USD/JPY	135.5	140.5	130.0
AUD/JPY	92.6	92.6	90.0
EUR/JPY	140.9	151.7	140.0
THB/JPY	3.84	4.03	3.80

内訳	'24/3期	前回見通し
売上変動／構成差	+90	+320
国内CV	+235	+320
海外CV	▲80	▲45
LCV	▲95	▲25
その他	+30	+70
為替変動	+30	▲180
USD	+50	▲80
AUD	+0	▲15
EUR	▲40	+5
THB他	+20	▲90
資材費等の変動	▲460	▲640
資材費	▲600	▲670
物流費	+170	+100
電気・ガス他	▲30	▲70
費用増減他	▲231	▲241
開発費	▲80	▲60
労務費	▲100	▲100
一般経費他	▲51	▲81

続きまして、24年3月期 通期の営業利益見通しの増減分析です。

前回見通しと比較して、販売台数は減少する見通しですが、価格対応の積み増し、資材費等が想定ほど上昇していないこと、及び円安影響により、前回から200億円増益の2,800億円に上方修正します。

なお、為替前提は、記載の通り、見直ししております。

'24年3月期見通し -前年同期比-

(億円)	'24/3期	'23/3期	対前年比増減	
売上高	34,000	31,955	+2,045	+6%
営業利益	2,800	2,535	+265	+10%
経常利益	3,000	2,699	+301	+11%
当期利益*	1,650	1,517	+133	+9%

	'24/3	'23/3		'24/3	'23/3
営業利益	2,800	2,535	経常利益	3,000	2,699
持分法による投資損益	+80	+58	投資有価証券売却損益、固定資産売却損等	▲18	+16
為替差損益	+50	▲24	事業再編関連損失	▲60	-
その他	+70	+130	減損損失(非支配株主持分控除後)	▲40	-
経常利益	3,000	2,699	ロシア事業関連損失	▲22	▲17
			法人税等	▲760	▲732
			非支配株主に帰属する当期純利益	▲450	▲449
			当期利益*	1,650	1,517

*親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright(C) 2023 Isuzu Motors Limited All rights reserved

営業利益以下の説明です。

経常利益は、営業利益2,800億円から持分法による投資損益、為替差損益などを加減し、3,000億円となる見通しです。

当期利益は、経常利益3,000億円から、法人税等、非支配株主に帰属する当期純利益などに加えて、IJTT事業再編関連の損失60億円、中国子会社における生産設備の減損損失40億円などを織り込んでいます。

中国子会社の減損損失についてですが、中国経済の低迷により生産能力に余剰が生じていることから、設備の減損を見込んでおります。

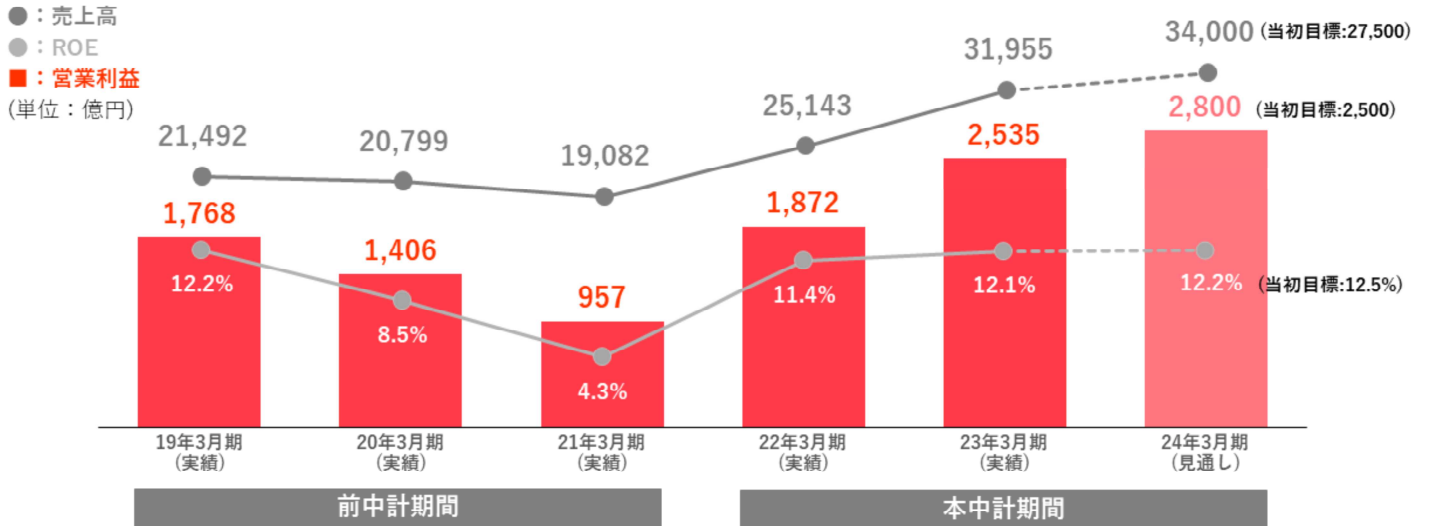
中国事業の撤退は検討しておらず、今後もパートナーと協力して事業拡大に向け活動してまいります。

3. 中期経営計画 進捗状況

続きまして、中期経営計画の進捗状況について、ご説明します。

本中計期間の業績推移

- 2021年5月の中計発表時から事業環境は大きく変化。為替が大幅円安となる一方、資材費等は高騰、需要面は、足元で金利上昇・インフレ影響により新興国中心に減速。
- 損益については、価格対応・合理化活動に取り組むことで、中計策定時に掲げた目標の達成を目指す。
- ROE目標（24/3期：12.5%）については、引き続き、増益により達成を目指す。



本中計期間の業績推移になります。

2021年5月の中計発表時から事業環境は大きく変化しております。大幅に円安が進行する一方、資材費等は高騰、また、足元では金利上昇・インフレ影響により、新興国中心に需要が減速しております。

損益につきましては、引き続き価格対応及び合理化活動に取り組み、中計策定時に掲げた定量目標の達成を目指します。

また、ROEは、現時点で中計目標の12.5%に届いていないものの、引き続き、増益による達成を目指してまいります。

本中計期間の株主還元について

■基本方針

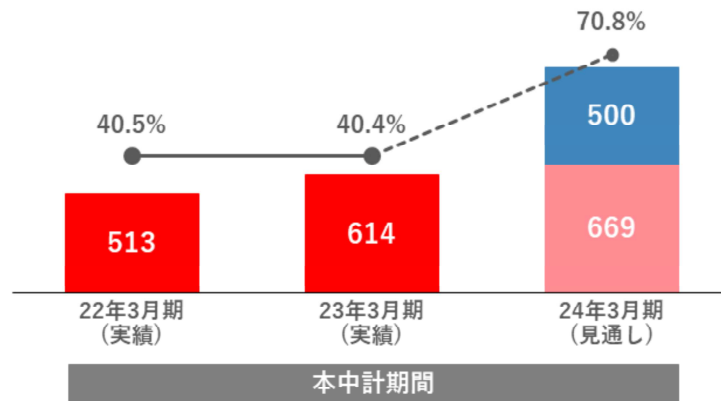
成長投資資金の確保及び財務健全性の維持を目的とする内部留保の充実とのバランスを総合的に勘案の上、各期の利益をベースに株主還元を実施するとともに、自己株式取得についても機動的に実施する

→ 自己株式取得：資本効率の向上を目的として、今期中に500億円を上限に実施、取得後は全数消却予定

→ 配当金：本中計期間の方針「配当性向(平均)40%」に基づき、年間配当を80円から86円へ、±6円増配

→ 総還元性向：本中計期間において、配当及び自己株式取得により、51.8%の株主還元を実施

■：自己株式取得額
■：配当額
●：総還元性向
(単位：億円)



3年間累計の株主還元

- ・ 総還元額：2,296億円
- ・ 配当性向：40.5%
- ・ 総還元性向：51.8%

続きまして、本中計期間の株主還元について、ご説明します。

本中計における基本方針として、成長投資資金の確保、及び財務健全性の維持を目的とする内部留保の充実とのバランスを総合的に勘案の上、各期の利益をベースに株主還元を実施するとともに、自己株式取得についても機動的に実施することを掲げています。

本方針に基づき、冒頭に山口から申し上げました通り、自己株式の取得および増配を実施します。

自己株式取得につきましては、株主還元強化に加えて、資本効率の向上も目的とし、今期中に500億円を上限に実施し、取得した自己株式は全数消却します。

配当につきましては、本中計期間の方針である「配当性向平均40%」に基づき、年間配当を80円から86円へ、6円増配します。

この結果、本中計期間3年間累計での総還元性向は、51.8%となる見通しです。

(附表)販売台数 / 財務指標

販売台数(千台)	本中計期間			
	22年3月期	23年3月期	24年3月期	
	実績	実績	目標	見通し
国内CV	65	67	78	84
海外CV	278	287	281	255
LCV	378	417	448	370
産業用エンジン	142	116	145	110
うちUDトラックスの台数(千台)				
国内CV	8	9	8	10
海外CV	10	11	9	10
投資/財務(億円)	22年3月期	23年3月期	24年3月期	
	実績	実績	目標	見通し
開発費	1,048	1,190	1,150	1,270
設備投資	784	822	1,000	1,400
有利子負債(リース関連除く)	3,174	2,411	2,600	2,500
自己資本比率	42%	43%	48%	43%

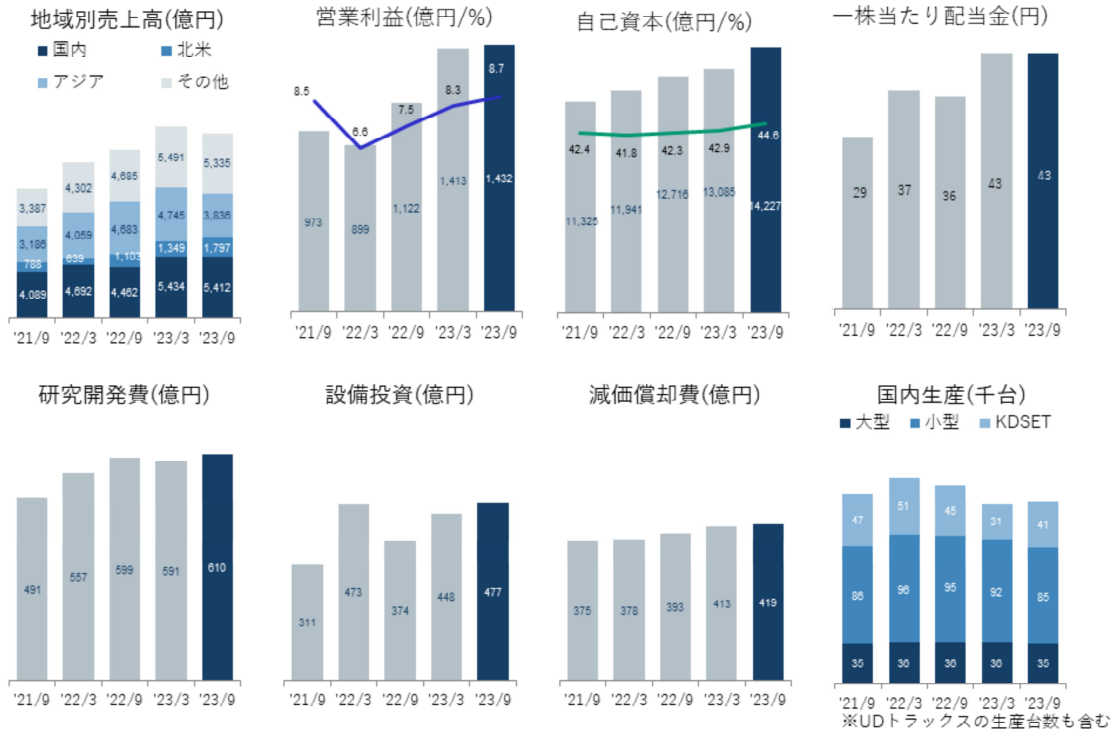
最後に、本中計期間における、販売台数及び財務指標の推移を記載しております。

これをもちまして、いすゞ自動車2024年3月期 第2四半期 決算説明を終了します。
ご清聴いただき、有難うございました。

地球の「運ぶ」を創造する

ISUZU

【付表】 主要事業指標推移等(半期)



(付表)本資料で使用している当社の製品カテゴリを示す用語について

CV (Commercial Vehicle)

- トラック及びバスの総称
- トラックは、主に日本を拠点に生産・輸出（いすゞ拠点：神奈川県 藤沢工場、UDトラックス拠点：埼玉県 上尾工場）
- バスは、日野自動車との合併企業であるジェイ・バスで生産され、いすゞ/日野の両ブランドで販売

<主なラインナップ>



大型トラック「ギガ/クオン」



中型トラック「フォワード」



小型トラック「エルフ」



路線バス「エルガ」



観光バス「ガーラ」

LCV (Light Commercial Vehicle)

- 1トン積みピックアップトラック、及び同車をベースにしたPPV(Pick-up Passenger Vehicle)の総称
- 主にタイを拠点に生産・輸出

<主なラインナップ>



ピックアップトラック「D-MAX」



PPV「MU-X」

(付表) 販売台数の集計ポイントについて

連結販売台数：決算短信の「連結販売実績」に記載される台数

